

「さとうきび畑の唄」の映画を観ました。

沖縄本土返還50年ということで、今年は沖縄戦の平和学習を行っています。その中で、沖縄戦をもとに製作された映画を鑑賞しました。47期生が平和について本当に深く考えていることが、感想文からひしひしと伝わってきました。ぜひ、仲間の感想を読んで、学びをさらに深めて欲しいと思います。

【感想】

映像で見ると、より怖くて恐ろしいなと思いました。昔と今の戦争に対する世間の常識の違いにびっくりしました。昔の人は国のために戦死しろという考えだったけど、今の世界は戦争をなくす方向になっている。これも沖縄戦などを二度と繰り返さないようにと思って、変わっていったことだと思った。だからといって、他人事だと思わず、今も実際にロシアがウクライナと戦っていたりと、まだまだ考えなきゃいけないと思うし、これらを日本人は決して忘れてはいけないことだと改めて思うことができた。

争いごとは、何があっても言葉を使って話し合いで、解決しないといけないと思った。人間が生まれた意味は、戦争をするためじゃなく、誰かを助けるために産んでもらって生まれてきたんだから、絶対にやってはいけないということを世界中の人に知って欲しいと思った。誰も痛い思いをしたくないと思うから、今のウクライナとロシアの戦争も早く終わって欲しいと思った。

私は、戦争の授業を受けて、初めて号泣しました。今までは、命の大切さだけしか見ていなかったけれど、今回の授業で「さとうきび畑の唄」を観て、家族の大切さや「生きたい」「幸せになりたい」ということが、ものすごく伝わってきて感動しました。戦争は、すべての人間が不幸になるから、絶対にやってはいけないと確信しました。みんなが安全で、幸せな世界になりますように。

実際の動画ではない、演じている人がいるとわかっていてもみるたびに心が重くなりました。あの地獄のような戦争を味わい、あの時代を生き残った人があるのだと思うと、想像できないくらい悲しくなります。自分が死ぬのもつらいですが、大切な人たちがなくなる方が私はつらいと思います。沖縄は唯一の地上戦だと聞きました。目の前に敵がいるこわさや、いつ、どこに敵が潜んでいるかわからない怖さは、凄かったです。戦争をしていない時代に生まれてこれて、本当に良かったと感じました。でも今この時間にもウクライナでは敵を恐れ、家族を失い、家を失い、亡くなっている人がたくさんいると考えて、とてもつらくなりました。

沖縄での戦争は地上戦で、沖縄の人たちにとっては、悲しくてつらい日だったと思った。思い出をつくるのは難しいけれど、壊すのは簡単だと思った。戦争はもう起こしたくないと思った。本当の戦争は、映画よりもっとひどいと思った。

世の中のほとんどの人々が、家族を大切に思っていて、家族を守るために生きているのに、身分が上だからって、自分は何もせずに人々を好き勝手しているのもおかしいし、日本人は、それに対して普通だと思っていて、しかもそれを否定したら、「お前はそれでも日本国民なのか。」と言われることを知って、悲しさと恐怖でいっぱいでした。

戦争については、小学校の時にある程度のことは知っていたつもりでしたが、あんなに生々しいものは初めて見ました。正直かなり心が苦しかったです。ずっと恐怖と心配をしながら、観ていました。ですが、安心や感動といったシーンも同じくらいありました。特に心にグサツときたのは、ハルコがアメリカ軍に「Do you kill me?」といい、それに対し「そんなことはしないよ。」とアメリカ兵がハルコの頭を撫でたシーンです。戦争は無条件に人を殺し、その人以外の人の幸せまで奪います。なぜ、話し合いをしないのかわかりません。話し合いで無理となっても、すべての人を巻き込んで争うなんて本当にバカらしいと思います。敵だろうが味方だろうが、みんな同じ人間なのだから、殺しあったりせず、平和になって欲しいです。

改めて戦争は苦しく悲しいもので、二度と繰り返してはいけないと思いました。「笑顔を見ると幸せな気持ちになる。」と言っていたので、戦争の中で、周りを少しでも笑顔にさせていた人はすごいなと思いました。今、安全に暮らせているのは、大きな凄いことだと思います。外国ではまだ戦争をしている国があるので、平和の大切さを伝えていくことが大切だなと思いました。

「戦争は、人々を幸せにする。」と言われていた時代があったことにまず驚いた。「お国のために死ぬんじゃなくて、大切な人のために生きるんだ。」とお父さんの言葉が響いた。何も関係ない一般市民にも、軍人の人たちにも大切な人がいるんだから、その命を殺したり、自害したりして、無駄にしてはいけない。現実にこんなことが行われていたと知って、悲しくなったし、涙が出た。

今もまだ、こういう戦争が続いている世界があると考えただけでもつらい。罪のない人まで、戦わせたり、殺したり、今じゃ考えられないけれど、あの時はそれが当たり前で、反対したら非国民と言われ殺される。なぜそんな残酷なことがあったのかに驚きを隠せない。

今までも戦争について授業をしてきて、あまり実感が湧かなかったけれど、映画を見て戦争は逃げ場所がないし、だれも幸せになれない辛いものだと思います。ロシアとウクライナもあんな感じなのかなと想像するだけで辛いです。平和な世界になって、戦争をゼロにしたいです。

ロシアとウクライナで、今も戦争が続いているから早く戦争が終わって欲しいです。沖縄戦みたいに、地上で行われ、たくさんの民間人が殺され、とても心が痛くなりました。初めてこの映画を見て、沖縄戦のことを知れたので、もっともっと理解を深めていきたいなと思いました。

家族が離れ離れになるのはやっぱり悲しいことだし、その後に戦死してしまって、最後にお別れの挨拶もできず、最後の言葉も聞けずに遺書を見ることしかできないは、とてもつらく心にくる。改めて、戦争が起こっているのも嫌だし、戦争に巻き込まれるのも嫌だから、戦争じゃなくて、小さな争いもなくなって欲しい。

最後のさんまさんの言葉が、とても胸に響いたし、本当にその通りだなと思った。戦争って、本当に意味がないと思う。これ以上悲しいことが起きないように、ニュースなどを見て、考え方を変えていきたいです。

沖縄戦はたくさんの方が亡くなって、たくさんの方がなくした人の悲しみを背負って生きていかなければならないと思うと、大変つらくて悲しいなと思いました。

私のひいおばあちゃんも戦争を体験しているけど、想像を絶する怖さで、絶対に二度と戦争はしてはいけないといっていました。なので、戦争を二度と起こさないようにしたいと思いました。

観ているだけでとても辛かったのに、あの時代、戦争で家族を亡くした人は、もっと言葉に表せないくらい悲しかったと思うし、とても胸が痛かったです。私は映画やドラマで一回も感動して泣いたことがなかったのですが、初めて映画で大号泣しました。もうすぐ、沖縄慰霊の日なので、その日はお家でお祈りしておきたいです。

私はこの映画を観て、やっぱり戦争を好きでやっている人なんていないと思いました。そう思ったのは、アメリカ兵の人たちが降伏しなさいと日本人にわかるように言っていたからです。これは、これ以上戦いたくないという気持ちを込めて言っているのではないかと思いました。

